

ひつじ書房創立 20 周年記念シンポジウム

可能性としての文学教育

場所 日仏会館（恵比寿）

日時 2010年9月23日（木・祝日） 13時より

山本康治（東海大学短期大学部）「国語教育がなぜ文学教育になったのか、の起源について」

岩河智子（作曲家・札幌室内歌劇場音楽監督）「楽しい音楽分析（アナリーゼ）～イメージを広げる楽譜の読み方」

相沢毅彦（早稲田大学高等学院）「文学教育の実践における読みの理論の必要性あるいは困難について」

パネルディスカッション

書くことの倫理

場所 日仏会館（恵比寿）

日時 2010年9月26日（日） 13時より

前田壘（文芸評論家）「電子化によって書物／文学とそのディスクールおよび受容にどんな変化が生じるか」

岡川聡（金融問題研究家）「国際金融とネット言論の倫理～メタレベルなき世界での合意形成をめぐる」

助川幸逸郎（横浜市立大学非常勤講師）（岡川講演の補足）「フェティシズムの現代的意義」

堀啓子（東海大学）「名作は誰のもの？ ～アメリカの読み捨て本 vs. 明治文学の金字塔」

パネルディスカッション

連用・連体を考える

場所 学習院大学

日時 2010年12月19日（日） 13時より

大島資生（東京大学）「接続節と近い意味合いをもつ連体修飾節」

橋本修（筑波大学）・渡辺昭太（東京大学大学院）「連体修飾・連用修飾の日中対照」

前田直子（学習院大学）「複文における連体修飾節と連用修飾節」

山東功（大阪府立大学）「「体・用」の別と修飾」

パネルディスカッション「連用・連体を考える」

指定討論者 井上優（国立国語研究所）

事前申込みが必要となります。ひつじ書房のHP、並びに下記のURLをご確認下さい。

<http://www.hituzi.co.jp/sympo/>

1990年創業、創立20周年を迎えました。



ひつじ書房